

令和6年度日野市廃棄物減量等推進審議会 要点録

■会議の日時等

日時 令和7年(2025年)1月20日(月) 午前10時30分～正午
会場 日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2階多目的室
出席者 審議会委員

【市民委員】

加納委員、加瀬委員、近藤委員

【学識経験者委員】

宮脇委員、渡辺委員

事務局

【環境共生部】

小平環境共生部長兼クリーンセンター長

【ごみゼロ推進課】

小澤課長、丸山係長、河本

【施設課】

細谷課長

傍聴者 なし

次第

<審議会>

1. 報告事項

◆ごみ・資源物量について

- ・ごみ収集、資源物回収量について(令和6年11月まで 対前年比較)

【資料1】

- ・ごみ量の10年推移(H26～R5) 【資料2】
- ・清掃概要(令和5年度実績)について 【資料3】
- ・可燃ごみ処理施設、プラスチック類資源化施設 搬入状況 【資料4】

2. 諮問事項

「令和7年度一般廃棄物処理計画(案)」について

■要点録

<審議会>

1. 報告事項

(1)事務局より、資料1～4に基づいて報告

≪質疑応答≫

A 委員：①資料1について、持込量が増加しているが、これは事業系ごみの増でよろしいか。

②資料3の2 ごみ量の推移について、可燃収集量 21,625tと持込量 4,035tの合計値と資料4の1. 搬入ごみ量実績の令和 5 年度搬入量 27696.3tで合致しないのはなぜか。

③資料4について、日野市と小金井市を比較すると、人口では約 2/3、令和 5 年度搬入量を比較すると約 1/2。それでも日野市の方がごみの量が少なく、全国 1 位の少なさになるのが少し不思議に思われた。

④水銀混入について、以前はもう少し発生していたかと思うが、どれくらい減って、どのような対策を講じたのか。

⑤昨今、リチウム電池の発火事故が発生しているが、日野市での発生件数はどうなっているのか。

事務局：①持込量の内訳は、許可業者(事業所)のごみと、市民が直接持ち込んだごみとなっている。このうち、大多数の割合を占める事業系ごみの量が増加したということである。

②資料4の1. 搬入ごみ量実績の令和 5 年度搬入量 27696.3tとは、資料3のごみ量のほかに、可燃性粗大ごみ・プラスチック残渣・不燃ごみ残渣・脱水汚泥等を浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設へ搬入したものである。

③日野市においても、まだまだごみの削減を図れる部分があると認識している。日野市・国分寺市・小金井市 3 市の課長会等で情報交換をするなどし、さらなるごみの減量に努めてまいりたい。

また、可燃ごみは日野市の方が多いが、資源物や不燃ごみ等の量が少ないため、トータルで日野市が全国 1 位のごみの少なさとなった。

④令和 6 年度は3回発生。令和5年度は6回発生。回数は半分になっているが、本来発生してはならないものである。発生防止策として、水銀回収キャンペーンを通年で実施。また、不燃ごみ残渣からの混入防止策として、携帯型水銀測定装置を導入し、不燃ごみ残渣の検査を実施。

⑤リチウム電池について、日野市では令和5年度に1回発生。収集途中でパッカー車より発火。令和6年度では、発生案件なし。

B 委員:①事業系ごみは、受け入れ金額が安いのか。

②事業系ごみを排出する事業所の中で、最も多い分野はどこか。

事務局:①事業系ごみであっても、受け入れ金が安いということはない。

②飲食店から出るごみが最も多い割合を占めている。

会 長:水銀混入事故についても、ほかでは測定していないところも多い。浅川清流環境組合は国から義務を求められていない連続測定を実施しつつ、なおかつ施設も新しく機器精度も高いため、どうしても発生件数が多いという風に見えてしまう。逆に言えば、それだけきちんと測定し監視しているので安全だということも言える。

A 委員:水銀問題として、体温計あたりが発生要因として大きいと思われる。実際、体温計を何本程度焼却すると水銀が発生し、測定させるのか。

事務局:事業者にも確認はしているのだが、はっきりとした回答を得られていない。

2. 諮問事項

事務局より、「令和7年度一般廃棄物処理計画(案)」について諮問

《質疑応答》

A 委員:①令和7年度の計画数値について、令和5年度実績値より設置と説明があったが、第3次ごみゼロプランにおいて、令和8年度には一人一日当たりごみ量を 550gとする目標となっている。現在、580g 弱の状況の中、果たして達成できるのであろうか。

②不燃ごみ残渣について、燃やしてもなお残る物はないのか。それらは埋め立てないのか。

③計画案6ページの6. 市が収集運搬、中間処理および最終処分しないものについて、一般廃棄物収集運搬業者等を紹介し、排出者の責任において処理をするとあるが、全て行先は確保されているのか。

④事業廃止された日野市ブランドのトイレットペーパーについて、日野市で回収された古紙の 20～30%程度が入った形でも事業継続はできなかったのか。

⑤衣装ケース以外にも粗大ごみの中からプラスチック製品はあるかと思うが、それらを一緒に新たなリサイクルに回すことはできないのか。

事務局:①処理量等について、浅川清流環境組合等に報告する上で、ある程度含みを持たせた数値とさせていただいている。

②多摩地域全体で、現在、不燃ごみを含めて埋め立てゼロの状況。日野市においては、陶磁器やガラス等不燃性のものも破碎残渣として焼却施設へ運んでいる。

③最終的な処理場所は確保している。

④ご提案内容についても、事業者と協議を実施。しかし、どうしても採算がとれなとのこと。採算が取れるようにすると、わずか2～3%の含有になってしまうということだった。

⑤衣装ケースについては、半透明で使用劣化もないため、リサイクルの質が良いということでまずは試験的に開始した。その他のプラスチック製品については、別途検討していきたい。

B 委員:日野市が全国1位のごみ量少なさになったことについて大変誇らしい。私が活動している中で思うことは、堆肥化したものを活用できるような土地の確保を要望させていただきたい。

A 委員:堆肥化すると、元の10%程度の量まで減るので、ごみの減量という点では大変良いと思う。

街路樹や学校の緑地など、一定数の需要はあると聞いている。

C 委員:個人的に、いかに日々の生活でごみを出さないか取り組んでいる。野菜はすべて食べ切るなどすると、生ごみは意外と減らせる。一番苦労したのはプラスチックごみ。これを減らすのは個人レベルでは到底無理と感じた。粗大ごみのリユースについて、日野市でももう少し力を入れていただきたい。

事務局:リサイクル事務所とジモティーとの共同運営を画策したが、予算化することができなかった。今後、回転市場も含めて、運用方法等検討し続けたい。

D 委員:回転市場へ持込される方が本当に多く重宝されていることを非常に感じる。ただ、スタッフ不足から運営が厳しいため、行政としての協力。支援をお願いしたい。

C 委員:市のホームページだと、情報を得るために自ら動かなくてはならない。高齢者等が多く集まる場所へのポスター掲示等、もっと情報発信をお願いしたい。

B 委員:プラスチックについて、今後、デポジットは導入されるか。

事務局:一部のスーパーで似たような取り組みをおこなっているところはあるが、今のところ事業者任せになってしまっている。市で予算化してというのはなかなか厳しいが、声掛けをし、取り組みが広まるような手助けはできるかもしれない。

A 委員:一部のコンビニで導入している事例もある。

事務局:実際にかかる負担など、制度設計をしっかりと行わないと継続性が担保できないため、それはこれから研究していきたい。

A 委員:考え方としては、拡大生産者責任が基本になると思う。作った人・売った人が、ごみになっても責任を持つべきという考え。

会 長:最後に何かご意見等ございますか。

A委員:意見として、令和8年度までに一人一日当たりごみ量 550gを掲げているのならば、そこへ向けて具体的な計画が示せると良いと思う。

C委員:私たちは、このような会議に出席し様々な情報を得ることが出来るが、一般の人たちは、今回日野市がごみ量の少なさで全国1位になったことをどれだけの人が知っているか。やはり、広報活動に力を入れて取り組んでいてもらいたい。

会 長:それでは、ただいま審議いたしました「令和7年度一般廃棄物処理計画(案)について」につきましては、当審議会として、「適当」と認め、市長に答申いたします。なお、議論の中で出た意見・要望等につきまして、記述の詳細は、会長に一任いただけますようお願いいたします。

それでは、最後に次第の3.「その他」として、事務局よりお願いいたします。

事務局:本日は令和7年度一般廃棄物処理計画(案)について答申いただき、誠にありがとうございました。

皆様からいただいた貴重なご意見を元に、今後ごみ減量に取り組んでまいります。なお、本日の会議を持ちまして、令和5年 2月1日～令和7年 1月31日までを任期として委嘱させていただいた審議会委員が終了となります。これまでの2年間、大変ありがとうございました。

それでは、これをもちまして令和6年度日野市廃棄物減量等推進審議会を終了とさせていただきます。

長時間に渡り、ありがとうございました。